

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	NRS熊本新事業所(一般品棟)	階数	地上2階、地下0階		
建設地	熊本県菊池郡大津町大字高尾野字	構造	S造		
用途地域等	工業	平均居住人員	3人		
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2023年10月 予定	評価の実施日	2022年9月1日		
敷地面積	37,864 m ²	作成者	新倉		
建築面積	1,828 m ²	確認日	2022年9月5日		
延床面積	3,086 m ²	確認者	岡田		

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.4

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

排出率

74%

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価		評価点												
		85												
	評価点													
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	100.0	<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値 (評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価点は、100点以上が推奨です。</p>	判定値 (評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値 (評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	70.0													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0													
【重点事項4】 循環型社会の実現	78.0													

CASBEE® - 建築(新築)

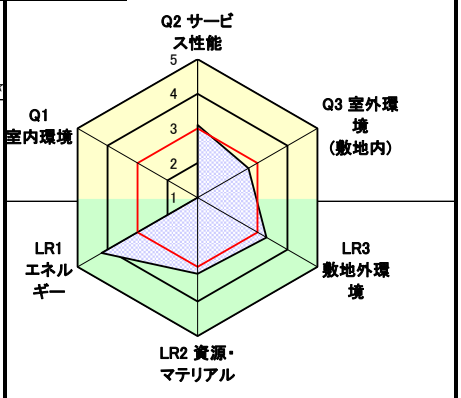
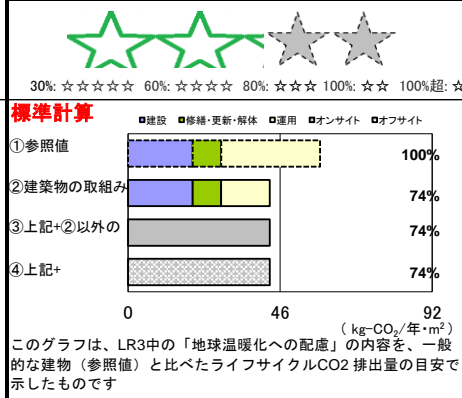
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

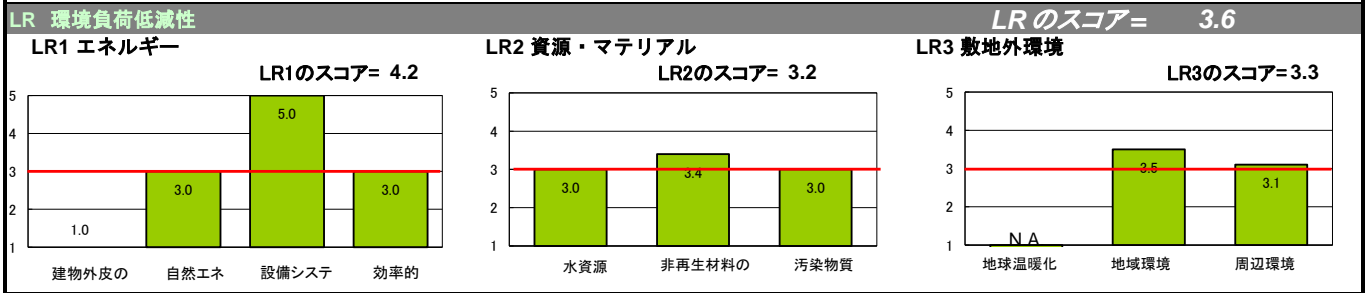
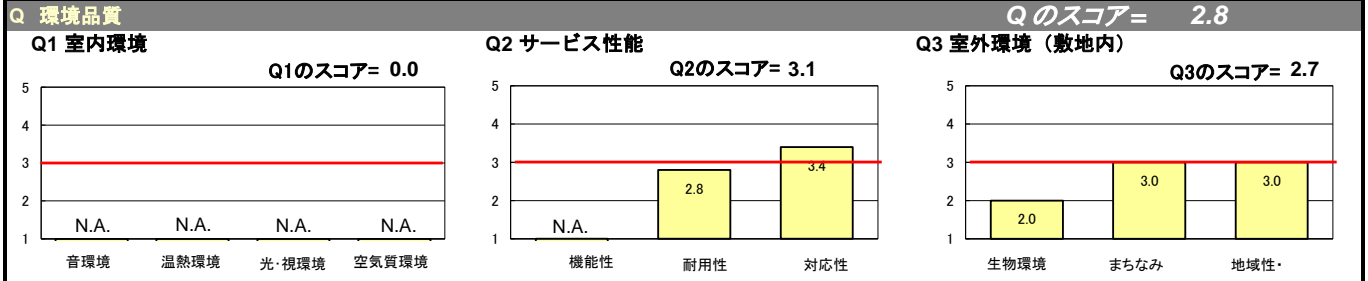
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	NRS熊本新事業所(一般品棟)	階数	地上2階、地下0階
建設地	熊本県菊池郡大津町大字高尾野字	構造	S造
用途地域等	工業	平均居住人員	3人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年10月 予定	評価の実施日	2022年9月1日
敷地面積	37,864 m ²	作成者	新倉
建築面積	1,828 m ²	確認日	2022年9月5日
延床面積	3,086 m ²	確認者	岡田



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート) 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE-建築(新築)2016年版
NRS熊本新事業所(一般品棟)

評価点が3超の項目

水色セル欄に数値やコメントを記入

⇒Q1~Q3シートやLR1~LR3シートにおける採点の根拠に倣って、要旨を記入してください

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄				評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル						-	-	-	-	-
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能						-	-	3.0	-	
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	-	
1.3 吸音						-	-	3.0	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温						-	-	3.0	-	
2 外皮性能						-	-	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						-	-	3.0	-	
2.3 空調方式						-	-	3.0	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率						-	-	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						-	-	3.0	-	
3.2 グレア対策										
1 昼光制御						-	-	3.0	-	
3.3 照度						-	-	3.0	-	
3.4 照明制御						-	-	3.0	-	
4 空気環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質						-	-	3.0	-	
4.2 換気										
1 換気量						-	-	3.0	-	
2 自然換気性能						-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						-	-	3.0	-	
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
Q2 サービス性能							0.43			3.1
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性						-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画						-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観						-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						-	-	-	-	
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計						-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保						-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.8	0.50			2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20			
2.4 信頼性						2.2	0.20			
1 空調・換気設備						3.0	0.25			
2 給排水・衛生設備						2.0	0.25			
3 電気設備						1.0	0.25			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.25			
5 通信・情報設備						-	-			

3 対応性・更新性			3.4	0.50	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高=6.6m ※3.9m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長比=0.127 ※0.1 ~ 0.3	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	-	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI(BEIm)0.49	5.0	0.63	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生加熱アスファルト混合物:周辺駐車場の路面	3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能、内装材と設備の錯綜を回避	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	
2 地域環境への配慮			3.5	0.50	-	-	3.5
2.1	大気汚染防止	燃焼機器の使用無し	5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	十分な駐車スペース、サービス車両の駐車施設、導入路の工夫	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.50	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの一部を満たす、配慮事項の過半を満たす	4.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	NRS熊本新事業所（一般品棟）	

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		85
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				100	0.40	40.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	1.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.29			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.43			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.14			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.14			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				70	0.20	14.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.20			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.50			
LR2-1.1	節水	0.0	0.00			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.50			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				78	0.20	15.60
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

NRS熊本新事業所(一般品棟)

印刷:モノクロ
設定済み

- ・適宜、箇条書き等で記入してください。
- ・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・倉庫用途としての機能の向上や効率性の確保を図った。 <p>【省エネ計算上の取り扱いなど】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全体が「定温倉庫等」として整備する計画:「工場の生産エリア」と同様 ・一次エネルギー消費量の計算:照明設備のみ対象、ほかの設備は無し(エレベーター装置自体は、「荷物用」のため計算対象外) 	
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりある階高の確保、荷物用エレベーターや垂直搬送機の配置計画の工夫、フレキシビリティの高い間仕切り材の採用など、各方面に配慮した。 <p>※「事務室や会議室等の居住エリア」が無いため、評価ツールにおけるQ1については評価対象外としています。</p>	
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・内装材に清潔を維持しやすい材料を使用した。 <p>※「事務室や会議室等の居住エリア」が無いため、評価ツールにおけるQ2-1については評価対象外としています。</p>	
Q3 室外環境 (敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の敷地形状は、ほぼ変更しない計画とした。 ・できる限り周辺の植栽を存置させる。 	
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・照明器具等は省エネ基準に適合する製品等を選定する。 	
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・設備等の交換の際、躯体や仕上げ部分を壊すことなくできるように配慮した。 	
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の建物配置を風向きに面して少ないようにまとめた。 ・風を妨げない高さや配置となるように配慮した。 	
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>	